

# 循環型社会を目指して



那珂川町から排出された不燃ゴミには、資源ゴミがたくさん含まれていた。

大量生産、大量消費、大量廃棄を繰り返す経済活動を続けてきた私たちの生活は、豊かで便利な社会になりました。一方で、将来的な鉱物資源の枯渇に対する懸念や廃棄物の最終処分場のひっ迫、地球温暖化などの問題に直面しています。

私たちには今、環境への影響を少なくし、限りある資源を有効に利用する「循環型社会」のライフスタイルに変えていくことが求められています。

町内の家庭や事業所から排出されたゴミは、南那須地区広域保健衛生センター（那須烏山市大桶）で処理されています。

表1の当町の年度別ごみ排出量を見ると、平成15年度をピークにあまり変化は見られず、ゴミが減っているとは言えません。一方、資源ごみは平成13年度に723トンのに対し、平成19年度は919トんと196トンの増加し、リサイクルへの関心が高まっていることが伺えます。

しかし、表3で示すように1人1日当たりの排出量は平成13年度で687gだったのに対し、平成19年度では78

0gと年々増加しています。

さらに、ゴミ処理にかかった費用を見ると、平成13年度は1人当たり年間10、050円だったのに対し、平成17年度の14、269円をピークに約4、000円も増加しています。この処理料についても、皆さんの大切な税金から支払われているのです。保健衛生センターに搬入された不燃ゴミの中にはスチール缶やアルミ缶、びん類などの資源ゴミが混ざった状態で出されるケースがあります。資源ゴミを不燃ゴミとして出した場合、鉄類を除き、最終的に産業廃棄物として処分場へ埋め立てられることになり

ます。ゴミを排出する際、混ぜたまま出せばゴミとなり、分ければ資源として利用できます。埋め立てるゴミを最小限にし、資源を有効利用する観点から、ゴミの分別を徹底することが大切です。

今、一人ひとりが自分のライフスタイルを見つめ直す時期にきています。私たちが便利さを追求することが自然環境を破壊していることもあるのです。自分だけならと思っただけでも世界とつながっていることを忘れてはなりません。もう一度、身の回りを見渡して、ゴミの減量と資源の有効活用、分別収集にご協力をお願いします。

表1 年度別ゴミ排出量 単位：t

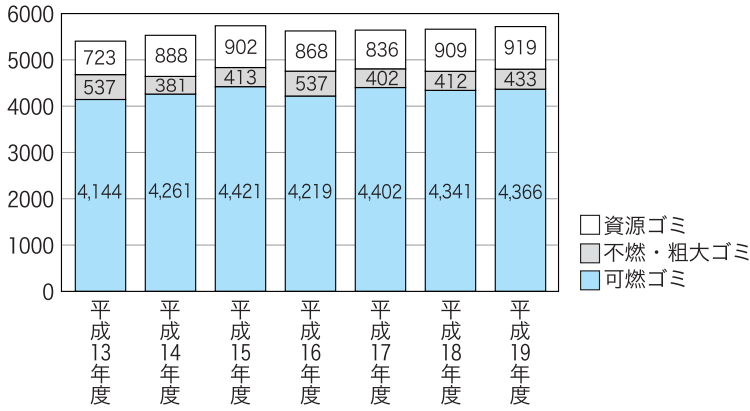


表2 平成19年度種類別ゴミの内訳 単位：t

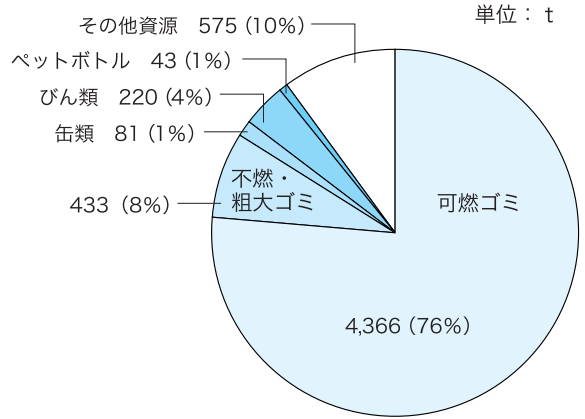
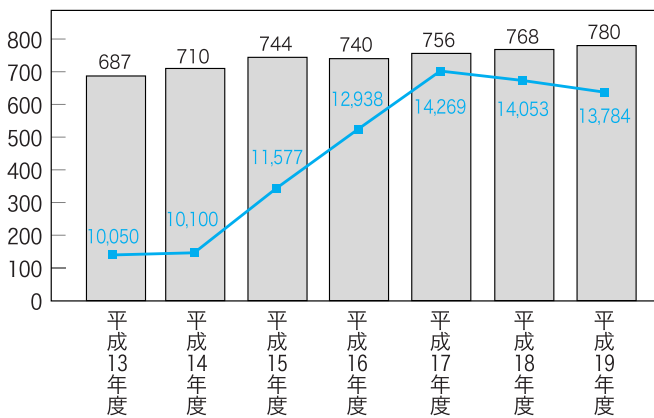


表3 那珂川町におけるゴミの排出・処理及び処理経費の状況



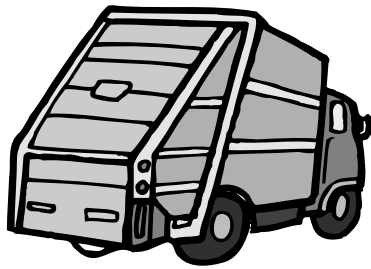
■ 1人1日当たりの排出量 (g)    — 1人当たりの年間処理費 (円)



不燃ゴミとして出された資源ゴミを分別する作業員



不燃ゴミとして出されたさまざまな資源ゴミ



**注意して捨てなければならぬゴミは何ですか？**

ゴミの中には、そのまま捨てると環境を汚染するものがあります。例えば乾電池です。水銀電池は燃えないゴミとして出されると、埋められて水銀が土や水を汚染し、人の健康を害する恐れがあります。環境への負荷のない繰り返し使えるニカド電池（充電式電池）を使うよう心がけましょう。

また、ゴミを集めたり、処分する人がけがをするような物も注意が必要です。ガラスや竹くし、カミソリの歯などはお菓子の空き缶などに入れ、直接コンテナに入れることのないようにして出しましょう。

蛍光灯はバラバラにならないように両端をしっかりと縛って乾電池を出す日に出すように出しましょう。

**ゴミ収集車で火災が発生**

年間数回、ゴミ収集車の火災が発生しています。原因は、燃えるゴミの中に中身の残ったガスライターやガス抜きされてないスプレー缶が混ざって出され、巻き込んだ時に圧縮されて、ガスが噴出し、引火して発火したものと思われる。

一歩間違えば命に関わるような事故も、ゴミを出す際のほんの小さな心がけひとつで防げるものです。

ゴミの分別、ゴミを出す際のマナーを守りましょう。

**スプレー缶・カセットボンベの出し方**

必ず最後まで使い切る。振って音がしないことを確認する。穴を2カ所以上開ける。穴を開ける際は火の気のない屋外で行うこと。

燃えないゴミの収集日に、コンテナの中に入れて出す。粗大ゴミとしてカセットコンテナを出す時は、乾電池を外して出しましょう。

これらのルールが守られていない場合は、収集できませんのでご注意ください。